横浜市民
ギャラリー
今日の作家展
２００６

横浜トリエンナーレ２００５出品アーティスト田添かおりによる

「根岸掘割川奇譚（ねぎしほりわりがわきたん）」
ワークショップ参加者募集！

関内の横浜市民ギャラリーで、来年２月２４日から３月２１日まで開催する「今日の作家展２００６　一丁目一番地 はまのくらし 街･人･アートをつなぐワークショップと展示」に関連して、アーティスト・田添かおりが、横浜の街をテーマに、事前のワークショップを行います。

【 ワークショップ「根岸掘割川奇譚」とは？ 】
「今日の作家展２００６　一丁目一番地　はまのくらし」は、文化･観光拠点としての開発めざましい横浜のエリアとは異なる、もう一つの横浜の表情、旧くからの横浜の街に暮らす人々の、日常の暮らしに焦点を当てる展覧会として、ただいま準備中です。

参加アーティストの田添かおりは、自身にとって身近な地域であり、歴史的背景に支えられた生活風景が今も数多く残る、根岸の掘割川に注目しました。根岸湾から八幡橋、滝頭、天神橋、中村橋などを通って、大岡川に合流する掘割川は、明治時代に、木材の水運のために人工的に作られた運河です。かつては岸に材木問屋が並び、桜並木の土手があったそうです。昭和半ばまで市電が走っていた川沿いの国道には、今ではバスや車の往来が絶えず、周囲にはビルも増えましたが、川の東西に少し入ると、三代にわたって暮らしてきた人も多い一軒家や細い路地が広がっています。

ワークショップの参加者は、この地区をアーティストと歩きながら、地名や人々の生活の様子をリサーチします。そしてリサーチを元に、架空の「言い伝え」や「伝説」から成る物語「根岸掘割川奇譚」を作り、登場人物のキャラクターづけをしていきます。参加者がつくった物語は、かつて伊勢佐木町などにあった芝居小屋の大道具を作っていた横浜の職人（絵師）の手によって、書割や板絵としてビジュアル化され、芝居小屋の資料館を思わせるインスタレーションとして、展覧会で展示されます。

このワークショップでは、現代美術のおもしろさが、必ずしも展示されるものの技巧的な完成度や新奇さにあるのではなく、アーティストが作品に挑む「プロセス」そのものにあるということを、参加者自身が体験することがねらいです。そして、自分の想像したことが、自分の手を離れ、別の人によって制作され、予想不可能な作品が生まれるという、現代美術において少なからず行われている手法を学びます。

奇譚（きたん）／世にも珍しく面白い物語。言い伝え。
書割（かきわり）／大道具の一。背景の一種。いくつかに割れるところからいう。
（岩波書店 広辞苑より）

詳細は裏面へ→